

予算要求資料

令和6年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業大学校費

事業名 施設整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 担い手対策室 経営体強化育成係 電話番号：058-272-1111(内4089)

E-mail：c11419@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 1,500 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正要求額	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 令和6年7月上旬、トマト自動化温室内に設置されている灌水用ポンプの送水機能が停止した。
- 職員による緊急復旧調整等により一時的に送水機能が回復したが、正常稼働時とは異なる現象(水圧が安定しない、ポンプが過熱し突然停止)が発生している状況である。
- ポンプが使用できなくなると、職員や学生が手作業で灌水(タンクに水をためてジョウロで灌水)せざるを得ず、多大な負担を強いることとなり、学生の実習に影響が生じる。

【参考】

農業大学校では、年間約1,300株のトマトを栽培しており、1日約2,000Lの水が必要となる。灌水ポンプを使用せず、手作業で同作業(灌水用ポンプ放水)を実施する場合、タンクの搬入と灌水作業を併せて、1日当たり延べ34人、950分・人/日となり、全学生46名の7割を動員し、延べ16時間程度の作業が想定)

(2) 事業内容

次期の冬春トマトの栽培実習(9月以降)を円滑に実施するため、故障したポンプを新しいポンプに交換し、改善を図るための工事を実施

- トマト自動化温室灌水用ポンプ改修工事

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	1,500	トマト自動化温室灌水用ポンプ改修工事
合計	1,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (3) 農林畜水産業の活性化
 - ①農林畜水産業を支える人材の育成・確保
- ・ぎふ農業・農村基本計画
 - 第6章1-(1)-② 産地の実情に応じた多様な担い手の育成・確保
 - ・多様な人材の活躍 農業大学校の環境整備やカリキュラムの充実

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

老朽化施設を改修整備することにより、学生の安全を確保するとともに、少子化時代にも選ばれる学校づくりをすすめる。

それにより、入学者を維持、卒業生を新たな担い手として育成し、多様な担い手づくりや売れるブランドづくりなど県施策の推進を推進します。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R5年度 実績	R6年度 実績/見込	R7年度 目標	終期目標 (R7)	R5達成率
①入学者数	27人	21人/30人	30人	30人	30人	70%
②卒業者数	25人 (R1)	21人/30人 (R4)	25人 (R5)	20人 (R6)	30人	70%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 農業大学校圃場内各施設の小修繕については、学生指導に支障を来さぬよう適宜対応してきた。</p> <p>指標① 目標：30人 実績：27人 達成率：90%</p>
令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 農業大学校圃場内各施設の小修繕については、学生指導に支障を来さぬよう適宜対応してきた。</p> <p>指標① 目標：30人 実績：26人 達成率：87%</p>
令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 農業大学校圃場内各施設の小修繕については、学生指導に支障を来さぬよう適宜対応してきた。</p> <p>指標① 目標：30人 実績：21人 達成率：70%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 2	農業大学校の古い施設や設備を整備していくことで、円滑に学校運営を進めることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	老朽化施設を整備することで、学生のプロジェクト研究をより効果的、効率的に実施することができ、一定の成果が認められる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	施設整備の優先度、有効性について施設ごとに検討し、計画的に整備を進めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>パイプハウスの被覆フィルムには、展張期間5年仕様のP Oフィルムが用いられており、耐用年数及び張替サイクルに合わせた改修を行い、パイプハウスの適正管理を図るとともに、各所の不具合について適宜対応し早期の修繕に努めることが必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>施設の老朽化について計画的に修繕を行っていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】